グリーン・デジタル・トラック・ボンドの評価について

2022年10月20日

株式会社格付投資情報センター（R&I）

GreenBond Platform
登録発行支援者

目　次

1. グリーン・デジタル・トラック・ボンド（DT債）の外部評価　P.3

2. レポーティングに関する外部評価ニーズ　P.6

3. インパクト志向の高まりとDT債の利点　P.7

1．グリーン・デジタル・トラック・ボンド（DT債）の外部評価

- 格付投資情報センター（R&I）は株式会社日本取引所グループ（JPX）が発行するDT債について国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則2021」と環境省の「グリーンボンドガイドライン2020年版」に適合していることを確認するとともに、R&Iグリーンボンドアセスメントを付与

■評価結果

評価対象	株式会社日本取引所グループ第１回無担保社債（社債間限定同順位特約及び譲渡制限付）（グリーン・デジタル・トラック・ボンド）
発行額	5 億円
発行日	2022 年 6 月 3 日
償還日	2023 年 6 月 3 日
資金使途	再生可能エネルギー（廃食用油を燃料に利用したバイオマス発電施設等）
評価	GA1（本評価）

●DT債として評価したポイント

- 項目別評価において「レポーティング」を高評価

項目別評価	評価	評価のポイント
調達資金の使途	🍃🍃🍃🍃🍃	対象プロジェクトから十分な環境改善効果が見込まれることに加え、環境面・社会面における潜在的にネガティブな影響にも配慮しており、環境課題の解決に資する程度は特に優れていると判断した。
プロジェクトの評価と選定のプロセス	🍃🍃🍃🍃	プロジェクトの評価と選定のプロセスは明確かつ合理的であり、優れていると判断した。
調達資金の管理	🍃🍃🍃🍃	調達資金の管理方法は適切に定められており、優れていると判断した。
レポーティング	🍃🍃🍃🍃🍃	日次でのインパクトレポーティングやデータ集計作業の自動化を通じ、情報開示における透明性・正確性の向上を図っており、頻度や内容等の面から特に優れていると判断した。
発行体の環境活動	🍃🍃🍃🍃	環境課題に関する明確な方針や目標のもと、具体的な取組を積極的に進めており、環境活動の取組は優れていると判断した。

※　各項目を5段階で評価し、🍃🍃🍃🍃🍃（最上位）から🍃（最下位）で表示している。

（参考）R&Iグリーンボンドアセスメントの概要

- 総合評価結果を5段階の符号で明記
- 個別評価項目別に の枚数で段階評価
- モニタリングを実施。当初決められた枠組みに基づく事項が適切に実施されているかを、定期的（原則年1回）に確認する

＜R&Iグリーンボンドアセスメントの符号と定義＞

符号	定義
GA1	グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高い
GA2	グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が高い
GA3	グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が十分である
GA4	グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度がやや低い
GA5	グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が低い

＜評価例＞

項目	評価
資金の使途	
プロジェクトの評価と選定プロセス	
調達資金の管理	
レポーティング	
発行体の環境活動	
総合評価	GA1

2．レポーティングに関する外部評価のニーズ

- グリーンボンドの普及段階において、グリーンボンド原則への適合性確認が外部評価者の主な役割だった

- 投資家のインパクト志向の高まりとともにインパクトレポーティングに対する評価ニーズが生じる

■グリーンボンドの外部評価の内容とニーズの変化

<table>
<tr><th>評価の時期</th><th colspan="2">評価の内容</th><th>評価ニーズ</th></tr>
<tr><td>発行前</td><td colspan="2">グリーンボンド原則への適合性
（資金使途に関する透明性）</td><td rowspan="3">高

低 → 高</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発行後</td><td colspan="2">資金充当・報告の遵守状況</td></tr>
<tr><td>インパクトレポーティング</td><td>・報告内容・時期の遵守状況
・報告内容の正確性
・インパクトの大きさ
etc</td></tr>
</table>

3．インパクト志向の高まりとDT債の利点

- グリーンボンド原則が環境改善効果（インパクト）のレポーティングを促すことにより、インパクトレポーティングの考え方が浸透

- サステナビリティ・リンク・ファイナンスにおいて重要業績評価指標（KPI）のレポーティングに関する検証が義務づけられることにより、報告事項の正確性が意識される

- 投資家のインパクト志向が高まるにつれ、インパクトの測定・管理（Impact Measurement and Management：IMM）の観点から、インパクトデータの正確性の確保、収集の効率化、評価尺度の多様化――などへの関心が生じる

  （主な動き）

  - 正確性の確保：非財務情報の限定保証取得
  - 収集の効率化：JPX 「ESG債情報プラットフォーム」
  - 評価尺度の多様化：インパクト投融資の普及

↓

DT債の利点が生かされることに期待

（参考事例）インパクト投資の評価指標
～Ｚエナジー　カーボンニュートラルファンド

- カーボンニュートラルファンドは2021年12月、Zエネナジー株式会社が再エネの普及・拡大向けた課題解決を通じて日本の脱炭素に貢献することを目指す長期インパクト戦略に基づき設定

- 投資対象の再エネ事業等のインパクトを特定・評価し、モニタリングする

■特定したポジティブインパクト（初期Stage）

投資対象（予定）	期待される主なインパクト	
	環境的側面	社会的側面
Stage 1: 太陽光発電を中心とする FIT 案件	・再エネ電力の活用による二酸化炭素排出量の抑制（SDGs 7, 13）	・再エネ需要家への安定した電力の供給の実現（SDGs 7） ・発電所の継続的な操業に伴う地方都市等における雇用の創出（SDGs 8） ・再エネ電気が生み出す産地価値等の活用を通じた地方創生や自治体との連携による地域活性化（SDGs 11）

（次ページにつづく）

（前ページよりつづく）

■アウトカムとKPIの検討（初期Stage）

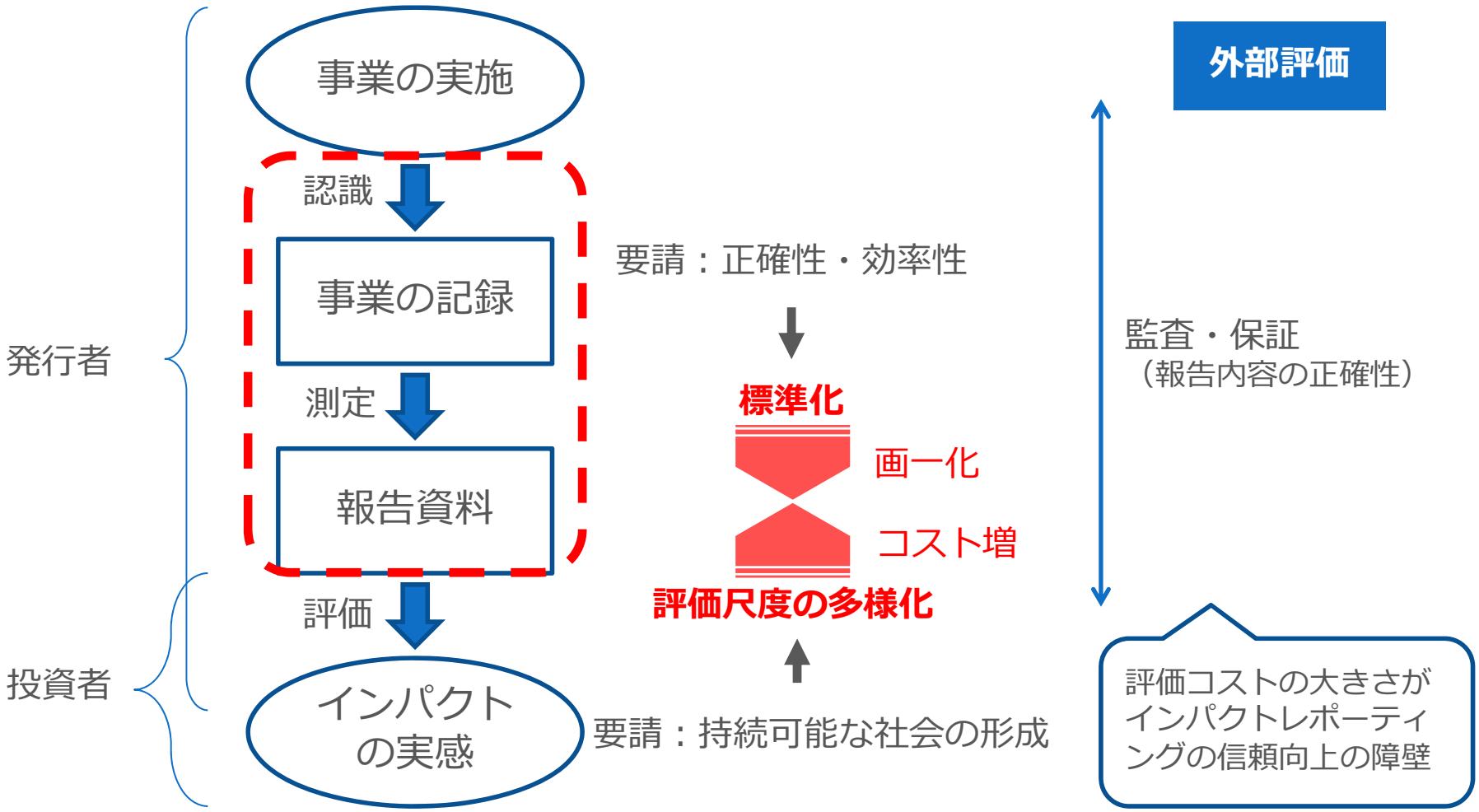
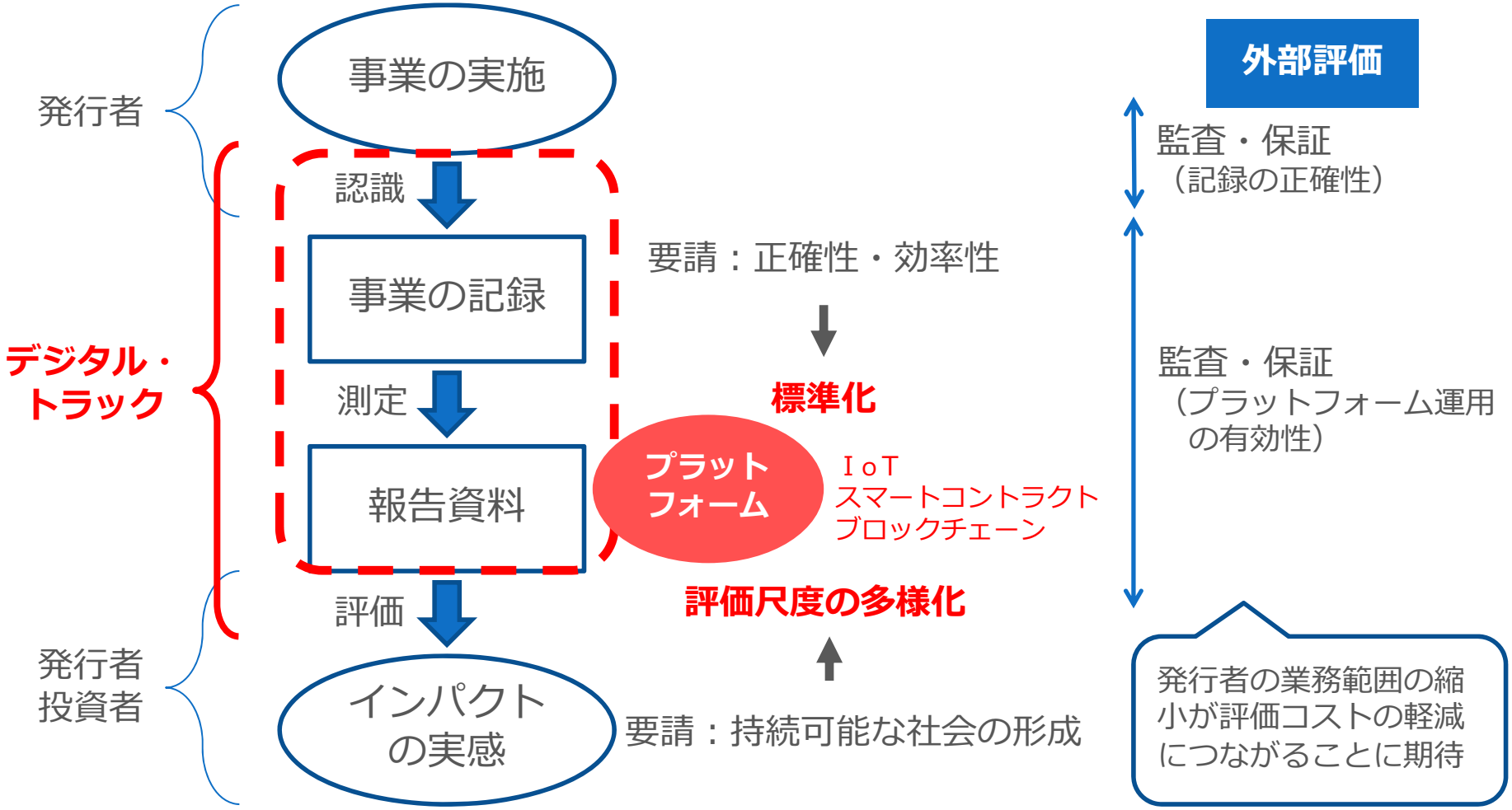
（アウトプット）	アウトカム	KPI	インパクト
取得した再エネ発電所	再エネ電力の供給	投資した再エネ発電設備容量（MW）	再エネ発電の長期安定稼働
〃	〃	需要家に供給された再エネ電力量（MWh/期間 i）	〃
〃	〃	再エネ電力の販売による収支（円/期間 i）	〃
〃	温室効果ガス排出の抑制	回避された温室効果ガス排出量(tCO2/期間 i)	気候変動の緩和

■モニタリング方法の検討（初期Stage）

KPI	モニタリング方法	モニタリング頻度
投資した再エネ発電設備容量（MW）	売買契約書の記録	半年ごとに集計
需要家に供給された再エネ電力量（MWh/期間 i）	サイトごとに設置されている電力メーター	常時。累積データを月ごとに集計
再エネ電力の販売による収支（円/期間 i）	売電伝票・領収書の記録	月ごとに集計
回避された温室効果ガス排出量（tCO2/期間 i）	回避された温室効果ガス排出量（tCO2/期間 i）	一年ごとに集計

[出所：環境省ウェブサイト「令和３年度グリーンファイナンスモデル事例創出事業に係るモデル事例のガイドライン適合性確認結果について」（2021年12月24日） 調達前報告書より抜粋 https://www.env.go.jp/press/110319.html]

●測定・開示プロセスの標準化と評価尺度の多様化のトレードオフ



●課題解決の方向性とデジタル・トラックの利点